積尸氣——プレセェペ星團

野　尻　抱　影

このところ三四年は，双子座・蟹座・獅子座の一帶は，往くさ來るさの星の旅人で忙しいことである．双子座には，言ふまでもなくまだ木星がゐる．此の座のδの近くにゐて，姿を滅多に見せない冥王星を忍術の甲賀者とすれば，木星は某の老公の微行の姿だらうか．カス——さんと，——クスさんと二人の家來がついてゐるなどとは申さぬことである．蟹座には，火星が血に渴いた侍のやうな無氣味な其目を光らせてゐる．獅子座は，此の間その宿はづれをエロスが早飛脚のやうに驅け拔けて行つたばかりだが，こゝにはレグルスの側に恐しく長逗留の海王星がゐる．そろそろ近づく此の座の花火大會——レオニヅ流星群をゆつくり見物しようといふのかも知れない．その來年の十一月には火星も獅子座に移つてゐる筈である．

こんな譯で此の冬は，いつもは餘り目につかない蟹座とその星團とを，火星のつひでに幾たびも搜し出した．火星が辻斬の浪人者なら，その近くに朦朧と靑白く見える星團は執念の鬼火でもあらう．事實，以上のナンセンスを抹殺しても，蟹座の此の星團は，支那で「積尸氣」といふ無氣味な名で傳へられてゐることを注意したい．

積尸氣は，言ふまでもなく積み重ねた死骸から立つ氣のことで，アレンは "Exhalation of Piled-up Corpses" と直譯してゐる．洵に支那人ででもなければ思ひつきさうもない陰慘な名である．僕は關東大震の時の本所被服廠の慘事を屢々想ひ合すのである．積尸といふ名の星は，もう一つペルセウス座のアルゴオルの直ぐ近くに在る．もしこれがアルゴオルの無氣味な變光に緣があるのであると，星の神話でこゝに女怪メヂユサの蛇髮の生首を懸けてゐることなども聯想して，積尸の名が興を加へて來るのだが，事實は，こゝの部分の太陵八星の墳墓を司る星とした爲に設けた名に過ぎない．

しかし蟹座の星團の積尸氣の名は實際の印象から來たものと，僕は考へてゐる．こゝの星宿を鬼宿と呼んでゐるが，これも太陵の場合と異なり，

逆に積尸氣から生れた宿名のやうに思ふ．鬼宿は卽ち蟹座プロバアで，$\gamma\ \delta\ \eta\ \theta$ の四星，支那名では夫々鬼宿一，同二，同三，同四に相當する．そして此の四星が中心に積尸氣を圍む四邊形のことを，管窺輯要其他に「四星册方木櫃に似たり」とあるのは面白い．漢譯の星の經文摩登迦經では，これを三星として「形畫瓶に似たり」と書いてゐる．

積尸氣は卽ち，ラテン名のプレセエペで有名な散開星團であるが，これも管窺輯要を引いて見ると，「其中央に色白く粉絮の如きもの」とある．粉絮も巧い形容である．そして，「之れを氣と曰ふは但其氣を見るのみなればなり．之を尸と謂ふは神に象どる所以の者なり」と說明してゐる．神が亡靈のことであるのは言ふまでもない．鬼も幽鬼でその意味である．

鬼と積尸氣の名が，支那一流の星占ひの上で不吉であることは察するに難くない．鬼は「死亡疾病を主どり，祀事を主どる」し，積尸氣も「死喪祠祀を主どる．一に鉄鎖と曰ひ誅斬を主どる．」なほ，四邊形の中に白氣を點じたのを目と見たらしく．晉書には「天目なり．視明を主どり，姦謀を察す」とある．僕は之れから埃及の壁畫を屢々聯想する．

今は火星が此の近くにゐるが，此の星は支那では螢惑(けいこく)とも呼んで災星として忌んでゐたので，現在見る樣な天象は勿論偸なことではない．管窺輯要にも「螢惑鬼を犯すは黃帝占に曰く，女主勢を失ふなりと．一に曰く，國に大喪あり．大臣誅せらるると．……一に曰く內亂ありて兵大に起り，城を屠るありて，白骨野に滿つ」などとして，漢武帝建元六年の例を引き「是の歲高園火災あり，竇太后崩ず」と記錄してゐる．

支那の迷信調べは際限もないから，以上で止めて置く．序でながら，佛本閣行集經に，月が鬼宿と合した時釋迦が降誕したとあるのは注意に値ひする．

積尸氣のラテン名プレセエペ (Præsepe) は秣槽(かひばをけ)の意味である．英語では此の意味で manger と言つてゐるが，英國では別にビーハイヴ(Beehive) 卽ち蜂巢と呼んでゐる．此の名は比較的近世のもので起原は分明でない相である．ロバアト●ボオル氏の書の支那譯，盧柏貝爾原著圖解天文學を見ると，此の星團の項を「星團甚大．其光發散．或名之爲蜂窩．人目所見．僅

有一團自光. 約在 γ Cancri之南. 以小遠鏡窺之. 甚爲美觀.」と書いてゐる.

プレセエペの名は, γ アセルス・ボレアリス(Asellus Borealis)と, δ アセルス・アウストラリス (Asellus Australis) の二星と關聯してゐる. 卽ち「北の驢馬の子」と「南の驢馬の子」で, 秣槽を扶んでゐる姿と見る, 二星を併せて言ふ場合は Asellus の複數でアセリ (Aselli) と言ふ. 神話では. これはバツカスとヴアルカンの乘馬で, 巨人族との戰ひの時に斷いて敵を潰走させた功で, 秣槽もろとも星にして貰へたことになつてゐる. それで希臘でも驢馬の意味で呼んでゐたし, その天文學を傳へたアラビヤでも然うだつた. 降つて中世紀には, 耶蘇の生れた馬槽と見られ, 驢馬の一匹は牛になつた. ドレイヤアの表では N. G. C. 2632,, メッシエーの表では M. 44である.

天文的には此の星團を, ヒツパルコスは「小い雲」, アラトスは「小い霧」, トレミーは「雲狀の點」などの意味で呼んでゐた. 十五六世紀の頃は專ら「蟹座の星雲」として知られて, 奇妙にも三つに分れてゐると見てゐた. それをガリレオが彼の望遠鏡で正體を曝露するに至つて,「プレセエペと呼ばるる星雲は, 一の星には非ずして四十以上の小き星々の集團なり. 余はアセリの他に三十の星を見たり.」と發表した. 因みに僕はこれから每度聯想するのは, 我が橘南谿が「奇器」といふ文で, 寬政年中和泉の岩橋善兵衛といふ者の作つた望遠鏡を見たことを書いた中に,「鬼宿中の白尸氣を見るに小星の聚りたるなり」とあることである. 今では, 十八等星まで三百五十八を算することが分つてゐる. 距離四百五十光年.

プレセエペ星團と南北のアセルスとが, その隱顯で晴曇を判斷さす位のことは有りさうである. 羅馬の博物學者プリニーは「もし晴夜にプレセエペが隱るることあれば暴風至るの兆なり」と書いてゐる. 溯つてアラトスの天文詩を記してみる.

「また小き霧のやうなる『秣槽』を眺めよ.
巨蟹宮の領域にして北に離れて浮べり.
そを挾むものは光淡き二つの星.
一は北に, 一つは南に在るものにて

秣桶が隔つる二匹の驢馬なり.
晴れたる夜にも秣槽忽然と消ゆれば
二つの星轉び合ひて近づくとも見ゆることあり.
この時は風雨あるとも牧場を浸すに至らず.
秣槽は暗く星は二つながら
變ることなければ雨至る兆なり.
もし北なる驢馬雨雲に淡れて,
南なる驢馬輝きて見ゆれば
南の風起る. もし雨氣と光と
星を代ゆれば北の風の兆なり.」

かうなると大分理窟が合はなくなつて來る.

泰西の占星術では, 星團や星雲はその朦朧たる印象から, いつも人間に禍を降らすものとされてゐる. 特にプレセエペは, 既にトレミーが「盲目を來らす」と折紙をつけてゐる. そして, 火星に相通ずる兇惡な性質である爲め, 今の樣な天象ではその祟りは二倍になつて, 疫病•破廉恥•盲目•虐殺•慘死等の災禍を下すとある. 猛烈な流行感冒や霧社蕃事件は此の爲だと言ふのかも知れない.

終りに, プレセエペの最古の科學的觀察は, トレミーのアルマゲスト第十卷に, 歷山大帝の死後八十三年, 木星（希臘ではゼウス）が秣槽の上を過ぎたと書いてあることである. これは西曆紀元前二四〇年九月三日の曉天で δ Cancri を掩蔽したことになる. また一八九五年六月には, 海王星を除く遊星が皆蟹座に集まつた. 一五三一年にハレー彗星が出現したのもここであつたと言ふ.（二•一）

野詩一首一粲に供し候　御叱正を得れば幸甚に候　　須磨關守人　香塢

矮壁荒門纔遶庭。幾年曾夜不關扁。
深更時聽犬頻吠。識星同人來觀是